

R

K682
U 95

碓氷關所事務所



碓氷關所事務所

碓氷關所事務所

碓氷関所事歴目次

緒言

第一

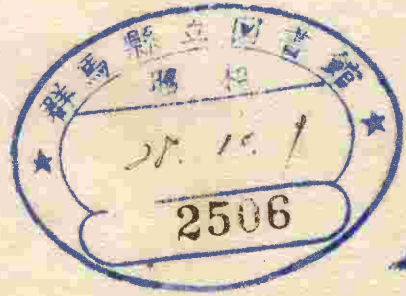
碓氷関所沿革
一 関所ノ変遷
二 関所守護代

第二

碓氷関所ノ位置

第三

関門内ノ構造
一 関門ノコト
二 番士住宅ノコト
三 同心住居ノコト
四 箱番ノコト



第四

役員及ビ雇員

- (一) 番頭ノコト
- (二) 平番ノコト
- (三) 同心ノコト
- (四) 仲間ノコト
- (五) 箱番ノコト
- (六) 川番ノ妻女ノコト
- (七) 堂峰見張所ノコト

第五

関門内備付武器及ビ雜具

- (一) 安中藩付ノコト
- (二) 幕府付ノコト

第六

関所制札

- (一) 制札寸法ノコト
- (二) 制札ノ寫ノコト

第七

関所通過ニ関スル規定

第八

通関手形並ニ旅人通過

- (一) 関所門限ノコト
- (二) 一般旅人通過ノコト
- (三) 藝人通過ノ狀況ノコト
- (四) 普通手形ノ發行者

第九

入銃砲及ビ出銃砲ノ出入ノ規定

- (一) 御判鑑ノコト
- (二) 出入銃砲老中御証文ノ例
- (三) 御証文裏御印ノ例
- (四) 御証文裏御印ノ例
- (五) 老中發行御証文返違

第十

高貴通過ニ當リ番人下座礼

(一) 常大名ノ場合

(二) 下坐無之直參ノ場合

(三) 日光門跡ニ家前田家ノ場合

(四) 禮幣使及ビ公卿ノ場合

(五) 老中ノ場合

附 番所飾付ノコト

第十一

(一) 関所破リ及ビ其ノ處刑

(二) 関所破リト云フコト

(三) 所刑 共一

(四) 所刑 共二

(五) 所刑 共三

(六) 所刑 共四

第十二

徳川吉宗日光廟參ニ當関所ノ因

第十三

通過ニ関スル雜事

(一) 寶官軍ノコト

(二) 武田金次郎ノコト

第十四

廢 関

(一) 幕府ノ関門ヲ朝廷ノ関門ニ改ム

(二) 廢 関

(三) 廢 関後ノ營理

第十五

関所内番所ノ經費及用具

第十六

助 郷ノ下

第十七

川又保橋ノ関所

第十八 雜錄

田園門塚
高五尺、八寸、石、形、ノ、ア、ヤ、リ



砥水所記念碑

砥水教育會、明治廿九年、四月、一日、建立、此、碑、以、記、之、
碑文、八、寸、三、寸、廣、氏、書、



田園所登口

同、年、白、石、燈、籠、八、寸、之、廣、家、外、以、後、方、一、
今、八、寸、五、尺、五、寸、



作場門鑑

此地、古作場ニ通リ、跡ヲ尋ネテ、石ニテ繪ニテ
作り、タテ四寸四分、ヨロニ寸六分厚サ、六分バカリナリ

後開氏宅

当時、同心後開氏ノ宅

おぼき石及 門ノ礎石

△印おぼき石
△印門ノ礎石
おぼき石ハ、舊所前階石ニあり、通行人ハ、身形ニ差込シ、入門時、
得テ心不此ノ石ニ履キテ着ケテ、敬意ヲ表シケルナリ
三百餘年前、美穂光若、解ニシテ、雪ハ定メテ、夏大ナク敷キ
ルベシナ

門礎石：長ハ四間門ノ台礎石、中央ノ凹所ハ門裏全ク
はめ入り、是ナリ、長キ年月ノ間、雨露トモリ、是レ泥土ト
まみれ、傾キ、不平
下滿ハ、踏台トナ
リ、門門ノ風ニ、最モ
全ク、しつた、殊
無ク、音ニある。

東間門趾 △印 四甲石ノ櫻樹新所、テ、茶所趾ナリ

礪河原

当時、礪場ナリ、シ、タ、口、△印

霧積橋(又保橋)

四甲石前、ハ、当時、最、首、場、ナリ
タ、ル、ト、コ、ロ、ナリ

龍駒山(鼻曲山)

剛所、ハ、東、向、三、角、ナリ、今、礪、上、テ、テ、登、ル、事、ナ
リ



横川の今昔

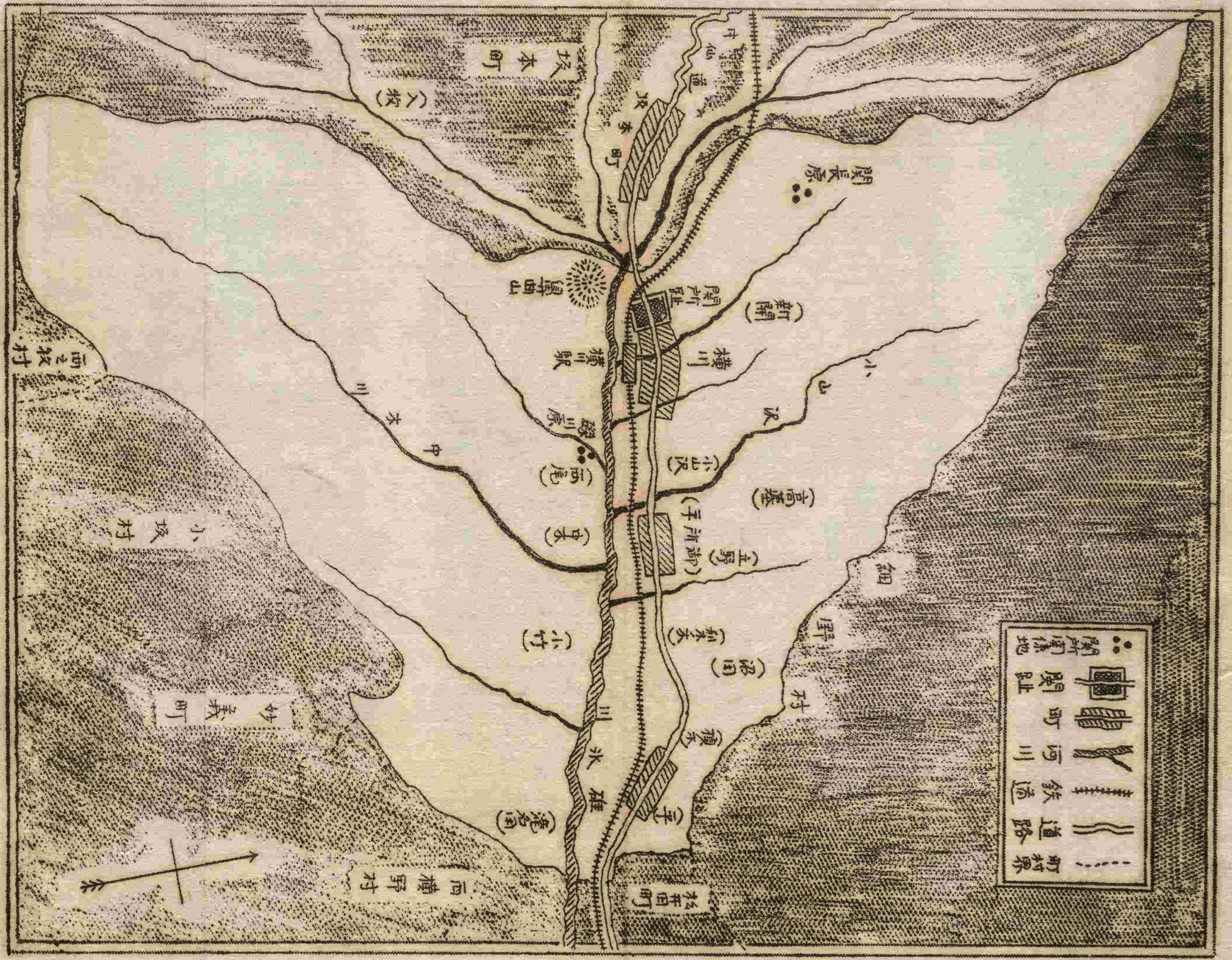
関長原三番所ナリシ頃ハ三十戸ニシテ微々トシテ村落ナリ元和九年横川村ニ開所ナリ移スニ當リテ関長原住民ハ其ニ移リ来リ居シテ四五十戸トナリ関長原ノ約二十戸トナリ明治三年町制施行際尙未ダ百ニ滿ラズ然レニ鉄道信越線開通ニ至リ俄ニ膨張現今二百五十戸ヲ算スルニ至ル

横川停車場

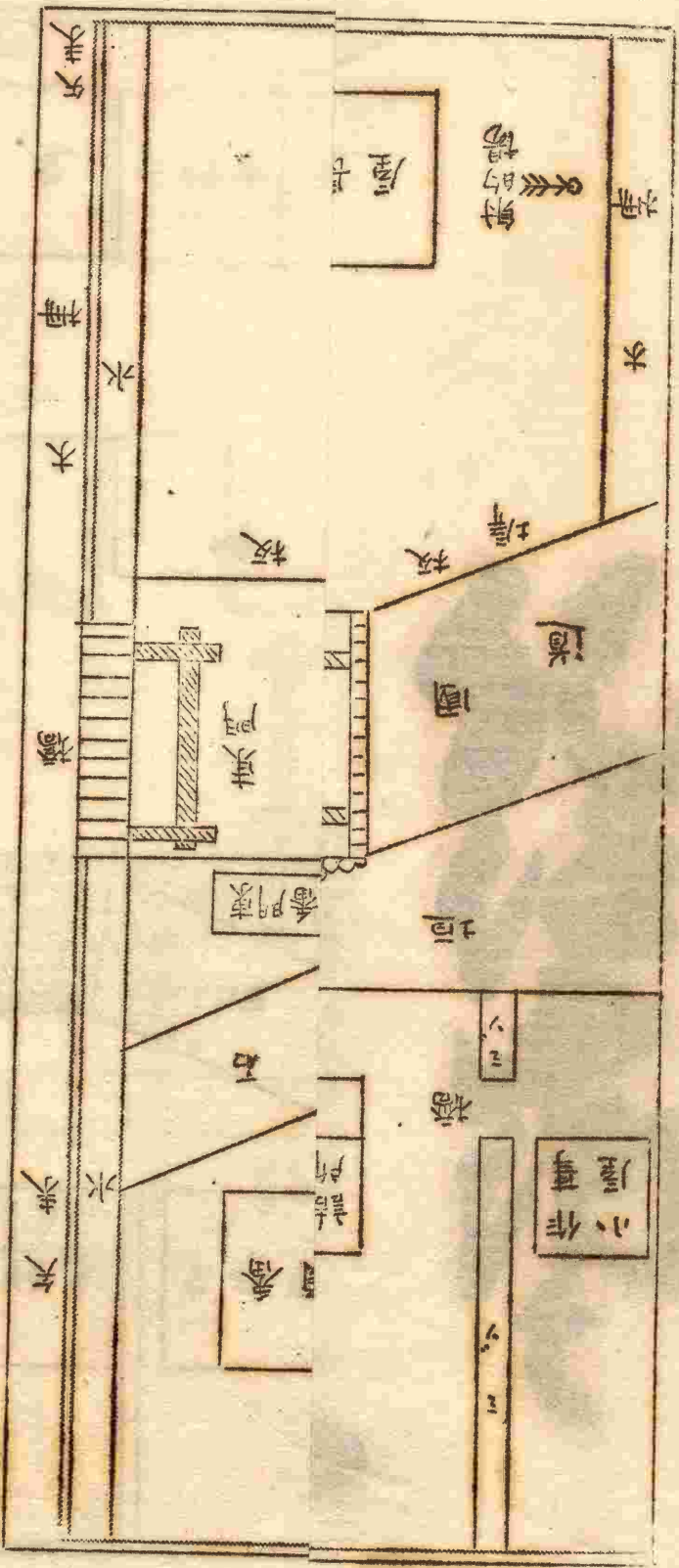
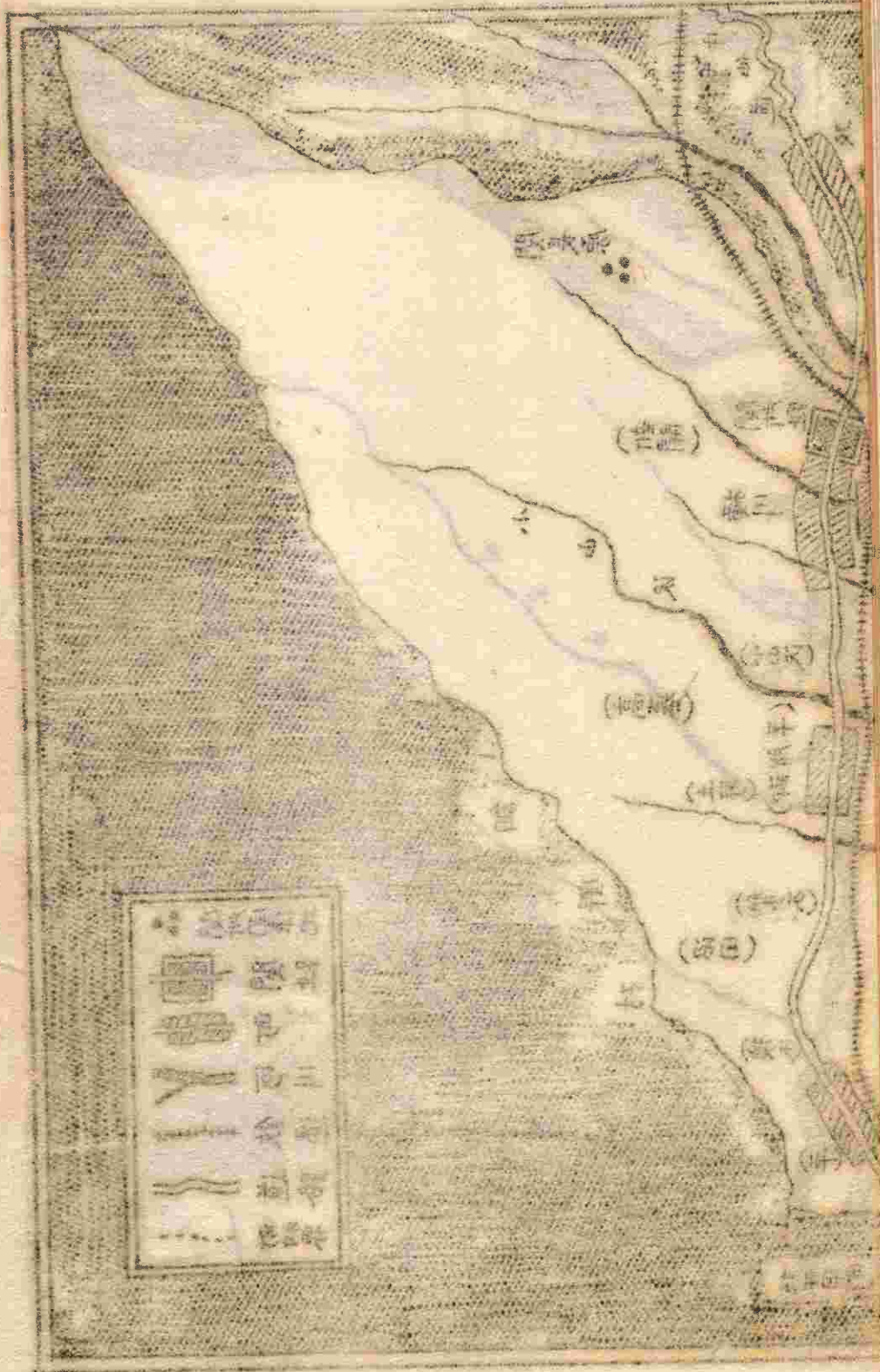
横川火力発電所

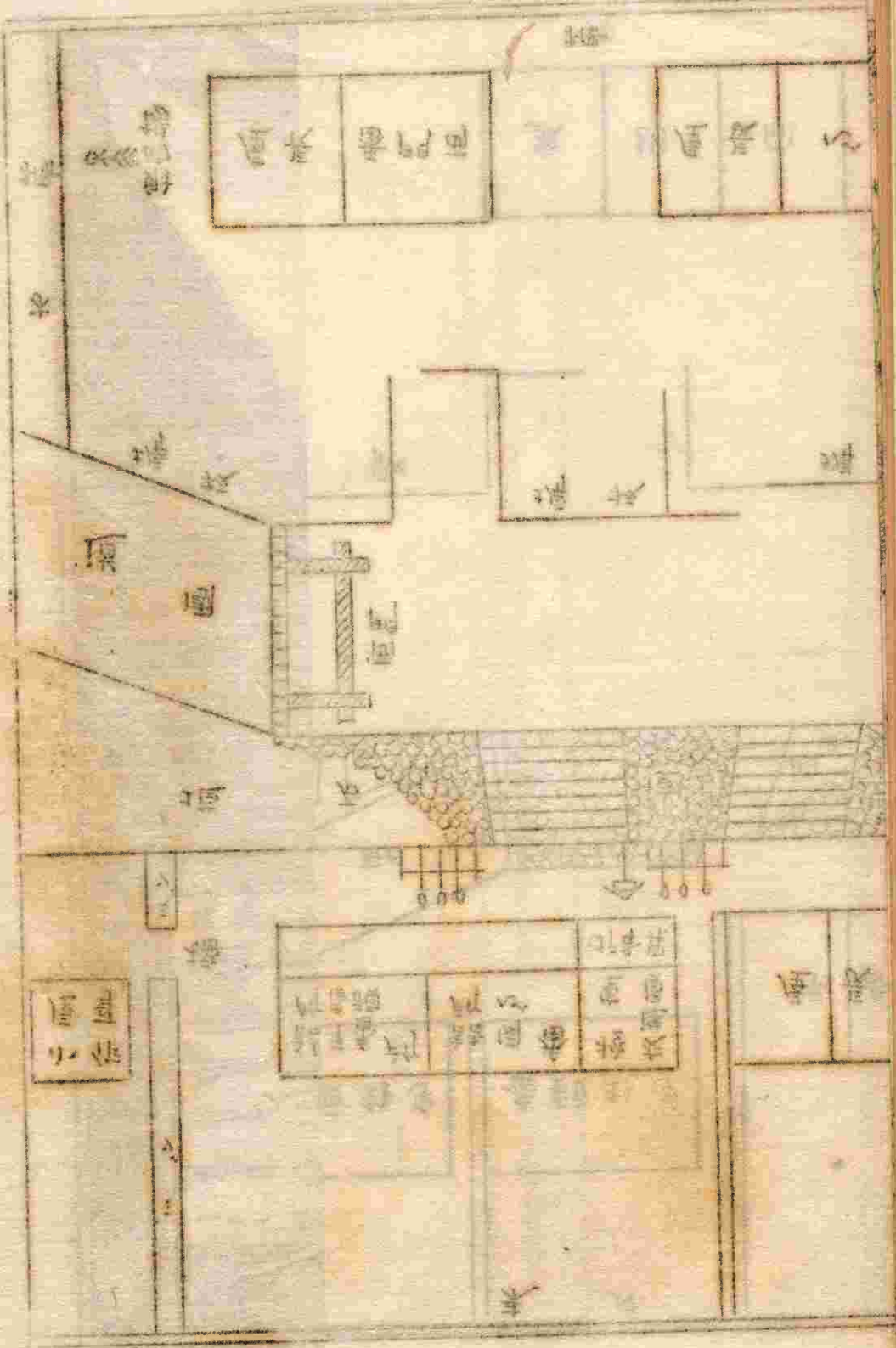
横川郵便局

横川鉄道検閲庫



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30





此係清之

平江府

卷之二



馬

牛

鹿

猪

羊

魚

鳥

虫

Vertical text on the right edge of the page, including the characters '虫' and '鳥'.

八

八

八

八

八

八

十月十九日

十月十九日

十月十九日

十月十九日

十月十九日

十月十九日

十月十九日

三月六日

壽

壽記

月

五

壽

卷之四
一
會
一
一
一

一
一

一
一
一
一



一
一
一
一



伊予新行
 船中御書
 伊予新行
 船中御書
 伊予新行
 船中御書





Handwritten characters in cursive script, possibly reading '天香' (Tian Xiang).

Handwritten character '之' (possessive particle 'possessive particle').

Handwritten characters in cursive script, possibly reading '子' (child) and '之' (possessive particle).

Large handwritten characters in cursive script, possibly reading '天香' (Tian Xiang).

Handwritten characters in cursive script at the top of the right page, possibly reading '天香' (Tian Xiang).

Large handwritten characters in cursive script on the right page, possibly reading '天香' (Tian Xiang).

予者之滿
所新之

卷

子



卷之二

卷

新

子



長年一祀奉

町奉人徳也松本堂茶

町奉人徳也松本堂茶

三六

松本堂



徳也松本

町奉人徳也松本堂茶



三月廿九日

望有主人 坂本官前道在奥中

御園新 案道近道在奥中

了 仍如前

安道中 平人母公

持河村 吉屋

御園新

御園新



碓氷関所事歴
 碓氷関所事歴
 碓氷関所事歴
 碓氷関所事歴

碓氷関所事歴

古來有名ナル緒言
 古蹟舊址ニシテ後世其ノ名ヲ書史口碑ニ遺ス
 二止リ其ノ蹤ヲ尋ヌルモ茫昧杳渺知ルニ由ナク徒ニ志アル
 ノ士ヲシテ慨歎セシムルモノ蓋シ鮮シトセズ
 彼ノ東海道箱根ノ險ニ設ケラレタル関門ト相待ツテ徳川幕
 府施政ノ方略トシテ諸侯ノ質信ヲ安全ナラシムルト共ニ通
 路者ヲシテ凄氣自逼リ悚然仰ギ見ル能ハザラシム其尊嚴ノ
 無限ナルコトヲ窺知セシメタル東山道ノ樞鑰即チ固メトシ
 テ我が横川ニ置カレタル碓氷関所ノ遺址モ今ヤ交替其形ヲ
 存セズ繞ニ石ヲ疊ンテ繚垣トナシタル其ノ殘骸當年ノ名殘
 フ葛蘿纏繞葦草茸茂ノ中ニ留ムルノミ爾後幾星霜ヲ經テハ
 全ク湮滅シテ空名ヲ遺スニ到ラント不幸ニ安中誌ノ在ルア
 リテ関所ノ沿革條規ヲ載スト雖モ関門ノ位置及ビ廢関當時

ノ情勢其他ニ関シテハ更ニ記スル所ナシ。我友之レヲ遺憾
トシ之ガ事歴ヲ查竅記述シテ以テ他日ノ参考ニ資セントス
然ルニ當時ノ書類散佚資料トスベキモノ甚ダ尠シ仍テ是ヲ
或ハ関興セル古老ニ質シ或ハ断片ナル簿冊ニ徴シ幾多ノ時
洞ト勞力ヲ費シ蒐輯ニ努メ可及的遺漏ナカラシムコトヲ欲シ
タリ。而モ往時茫々事志ト違ヒ所志ノ全達ヲ成シ難シ則チ
完璧タルコト能ハズ然レドモ其ノ企圖ニシテ幾分ニテモ自
ヲ裨シ他ヲ益スルコトアラシカ聊カ本懐トスル所ナリ。
関所旧址ハ現景ヲ撮寫シ更ニ地圖繪画ヲ布入シテ位置構造
等ヲ了解シ易カラシメタリ。
記述ヲ書録ニ據リタルモノハ其ノ當時ノ状態ヲ偲ブニ便ナ
ランガタメ且記者ノ心意ヲ傷ケガランガ為ニカメテ原文ノ
儘ヲ引用スルコトトシタリ。

一 関所ノ變遷 第一

碓氷関所沿革

- 一 正應二年初メテ鎌倉執權北條家ヨリ関長原ニ
関所ヲ設ク。
- 二 大永二年當時ノ関守武田家ニ破ラレ武田家ヨリ
武井新兵衛、佐藤助之丞等ヲシテ守ラシム。
- 三 天文年中小田原北條家ニ攻メラレ二人守ヲ
棄テテ走ル後新兵衛ノ子孫ハ殘存シテ世々
横川村ノ名主トナリ助之丞ノ子孫ハ輕井
澤ニ殘存セリ。
- 四 文祿年中伊奈備中守大久保岩見守

更ニ横川村ニ関所ヲ經營ス。
五慶長十九年井伊兵部少輔直勝関長原ニ
假番所ヲ建設シ横川村原村ノモヲラシテ
守ラシム。

六元和八年六月幕府ノ目付能勢次郎左衛
門實地見分トシテ横川村ニ来ル徳川秀
忠上洛ニ付キ幕府ノ内意ニヨリ東山道ノ
固メトシテ翌年三月領主井伊侍從横
川村ニ関所ヲ新設シ合セテ碓氷嶺堂峰
ニ遠見番所ヲ置キ原村ノ者ニ守ラシム。
関長原ノ番所ハ寛永十一年家光上洛帰

還後廃止トナル。

(當時ノ書留抜萃)

井伊侍從安中御領之節 秀忠公就 御上洛為御用心
當御関所御見立被 仰付候其以後 家光公 御
上洛御成筋者東海道此邊茂為御用心御目附能勢治郎左
衛門小幡孫市殿御関所迄御檢分被仰付從安中侍從家老
松下源左衛門御差出當所御案内申上御目付中委御見分
源左衛門江御尋被成候者御困後通リ行貫要害不亘相見
候関長原之方江御番所引退候而可然ト源左衛門御挨拶
申上候者仰之通後場廣ニ御坐候然所引退候者往還筋茂
不亘依之侍從了簡致候者々様之節又ハ何ソノ事ヤカマ
シキ儀ニ有之節関長原之方江假番所ヲ立申足輕大勢廻
シ置固可申所存ニテ此場所関所相構申候御目付中尤之
答ニテ極此所之由仍之 御上洛 還御迄彼地ニ假

番所出來足輕大勢御差出置候其引續遠見所見分堂峰見
晴能廻候者等明見江可申候場相定如件之所遠見番所極

此節御代官

因登治郎兵衛殿
高室助右衛門殿

二 關所守護代

(一) 慶長十九年元禄年迄ヨリ正保元年ニ至ル井伊兵部

少輔直勝關長原番所同侍從直之

(二) 正保元年ヨリ寛文七年ニ至ル水野備後守元

綱同信濃守元知

(三) 寛文七年六月堀田筑前守安中ヲ賜ハリ移リ

來ルマデ高崎藩主安藤對馬守

備考 (一) 記録原文抜萃

水野信濃守殿御絶家暫高崎江御關所
御預々安藤對馬守殿御勤務被成安中
江者公義御目付兩人荒木十左衛門殿堀
三左衛門殿被仰付置當所江茂御越被成
候堂峰御見分遠見所見晴能可然場下
被存候

此節代官

因登甚右衛門殿
高室安右衛門殿

(四) 寛文七年ヨリ天和元年ニ至ル堀田筑前守

正俊

備考 (記録原文抜萃)

堀田筑前守古河江御所替元禄十四年三月
板倉伊豫守殿安中御拜領今六月御請
取此間高崎江御番所御預リ被成御勤
候此節 公義御目付佐久門外右衛門
殿小笠原七左衛門殿當所江茂御越御
逗留御所御見分足灘ヨリ丸山ノ腰
ヲ御廻リ坂本江御貫遠見所江御上リ御様

子御覽ノ上被仰候者御所後之方不宜候
得共遠見所ヲ以御番所之要害詰リ申候
侍從殿ノ御見立尤之事ト被仰外ニ御尋無
之御帰被成候其節為席案内定附老人洪
谷有右衛門被召連候安中御領主被仰出
無之内ハ西度共同心七人門番江公義ヨリ
御扶持被下御代官所ヨリ請取

(五) 天和元年ヨリ元禄十四年ニ至ル板倉伊豫守
板倉靱負

(六) 元禄十四年ヨリ寛延二年ニ至ル内藤丹波守

改森同山城守政里同金一郎政苗

備考一内藤金一郎國替二付板倉佐渡守二
關所引續三關スル件共一節後詳一

一御所然口二付為御關所請取安中旅宿明々
七ツ半時出立

番頭兩人 若党貳人宛 草履取一人宛

鑓持一人宛 具足箱持一人宛

狹箱持一人宛 乘掛一人宛

平番三人 草履取一人宛 乘掛一人宛

御幕箱捲對入

看板羽折才領小頭一人 中間二人

注進足輕一人 門番中間二人

右四ツ時過横川村名主迄着支度申付候

一横川村役人申付御關所江遣候御案内次第
御關所為請取可罷出旨申遣候處早速
案内有之麻上下染帷子着用御關所江
罷越候供廻り不殘御門内江入候

一御關所請取

横川御關所二引渡申覺

(整目錄三用紙八程村)

御老中様方

一 欽砲御証文

一同

八通
壹通

是者尾州様紀州様御持筒三十五枚之事

一同

是者松平加賀守様御持筒五枚之事

御留守居様方

一 御條目

一 御判鑑

貳通
壹通

一 御証文

但扣帳卷冊

參拾四枚
貳通箱共

一 御判鑑

榊原小平太様

松平丹波守様

一 從越後國入女御証文

三枚

但扣帳卷冊

一 從信濃國入女御証文

六枚

但扣帳卷冊

一 從福島御前所書替証文 四十六枚

但扣帳卷冊

一尾州様御鉄砲御家老中詠文 四通
 一紀州様御鉄砲御家老中詠文 三通
 一御判鑑 四枚

伊東半左衛門様
 前田采女様
 山村甚兵衛様
 穀塚孫次郎様

一判鑑

尙箱

諸御大名様方御家来中
 但帳面尙冊

寛延二己年五月

内藤金一郎内

兵藤九左衛門
 大谷源五郎
 永田敏右衛門
 村上藤兵衛

板倉佐渡守様内

海保覺治殿
 小林唯七殿
 野村傳左衛門殿
 中村小八郎殿
 小川太郎兵衛殿

七、寛延二年ヨリ廢關ニ至ル板倉佐渡守勝清
目肥前守勝曉同伊豫守勝意同伊豫守勝
尚同伊豫守勝明同主計頭勝殷

第二、碓氷関所位置

碓氷関所ハ今ノ臼井町大字横川ノ西端字
宮内(番所敷跡)及ビ字柵内(関門址)ニアリテ南ハ鼻
曲山ノ絶壁ヲ以テ劃シ碓氷川山脚ヲ洗ヒテ東
流ニ妙義連山其ノ南西ニ延ビテ突兀重疊ニ北ハ

丘陵起伏蜿蜒碓氷ノ險ニ亘リ老樹古木蔚密暗瘴
天地間トシテ鳥路熊徑ヲ微カニ樵夫獵師ノ来
往スルノミ 西ハ霧積川通路ヲ横断シテ川久保
ノ架橋アリ寛延ニ夫之レヲ扼スレバ萬夫ヲ通ズル
コトヲ得ズトモイフベキ要害地ナリ 而シテ関門
要害地及ビ御囲内ト称スル區域ヲ記録
原文ノマ、次ニ記サン。

御所御要害地後通五料村横川村境小山澤
ヨリ堂峰御番所小柴ノ峰マテ 但所積堅五十
町餘横三十町程

横川村五科村境通路為無之掘切之處有之候

亀澤 若付 萩之久保

御園所前ハ鼻曲山ヨリ大星原山入山中尾山マ
テ同所御園内ナリ(南)

横川村ノ中屋野澤ト申マ所ヨリ足灘ト申ス所
迄御園内ナリ(北)右御園内ニ関長原ト申原有
之候 但町ニ積 堅六町程横ニ町程

第三 関門内ノ構造

一、関門ハ東西トモスベテ左右ニ崩キ閉鎖スルトモハ
内ヲ貫キテ其中央ニ鍵ヲ附スルノ装置ニシテ其

高サ各ニ丈東西関門ノ距離五十二間ニ尺アリ
東関門ハ今ノ吉原勇吉、後閑利三郎両
家間ニアル小路ヨリ北側溜池ノ東縁ニ一線
ヲ引キタルトコロニシテ西関門ハ佐藤猪
三郎居宅東側ニ當ル所ナリシト云フ。

東関門南側ハ碓氷川沿岸迄木柵ヲ築
キ川ニ接スル僅少ノ部分ハ竹矢来ヲ結ブ此ノ
長サ七十五間一尺西関門ハ碓氷川ニ向ツテ
四十間許リ老松古杉森々翁鬱畫尚暗ク
削ルガ如キ断崖マデ木柵ヲ造リシモノナリ
但シ立木悉ク伐採シ僅ニ朽株ヲ残シマリ
シモ鉄道工事ニヨリ附近掘鑿セリ殆
4

下原形ヲ留メス

二園道北側約二十尺ノ高所ニ番頭住宅ニ棟アリ
其西ニ隣シテ平番住宅一棟アリ此ノ一棟ハ
三間長屋ニシテ何レモ皆平屋建ナリ塀ヲ
繞ラシ道路ヨリハ只屋上ヲ望見シ得ルノミ
共ノ西ニ小溝ヲ隔テ、一段ノ高所西園門ニ面
シテ番所アリ。梁長十間番所ノ前道路ニ
向ツテ昇降階段アリ階段ノ右ニ槍二本左
ニ指眼・突棒・度等ヲ飾リ置ク其ノ傍ニ制札
アリタリ。
番所内ハ之ヲ三分シテ西室ハ番頭及ビ平番

ノ勤務所トシテ次ハ壁ヲ隔テ、同心ノ勤務室
其ノ後方ニ鉄砲弓捕縄等ヲ備付ク東ナル小室
ヲ更ニ二分シテ前方ハ昇降口後方ハ勤務者
ノ控室トス 番頭及ビ同心室ヲ通ジテ表ニハ白
地ニ板倉俵定紋花菱ヲ黒ク染出シタル縮緬
ノ幔幕ヲ絞リ掲グ旅行者一度門ヲ入リテ
仰ガテ番所ノ察嚴役員ノ凛烈タル威風ヲ
見テハ自然ハ膝行俯伏シタリト此ノ番所
ノ西北更ニ一段ノ高所ニ作事小屋アリ是等
建物ノ左右及ビ後方ハ竹矢来ヲ以テ圍ム。
番所前及ビ西園番室後方ニハ射撃場アリ
テ諸士人常ニ射撃ノ練習ヲナシタリト云フ。

三、道路南側ハ同心五人ニ各間口八間宛、地面ヲ興へ之ニ相當スルノ家宅ヲ給レ常住セシメタルが享保年間火ヲ失レテヨリ長屋建トシ之レヲ五分シテ住居セシメタリ板塀ヲ以テ道路ト區劃ス御番所前石垣ヨリ塀迄距離五間ナリ。

四、東門ヲ入ルト右側ニ箱番アリ其ノ後ニ門番室アリ西門ハ南側ニ箱番其ノ後ニ門番室アリ何レモ板塀ニテ道路ト區劃ス。

第四、役員及ビ雇員

一、番頭二人各、五十石拜領ノ士ニシテ関内ニ常住シ一日交代ニ所務ヲ執リ上席者決裁權ヲ有ス。
二、平番三人十二時間交代ニテ出所シ番頭ノ補助ヲナス。

三、同心五人一日二人宛ノ交代ニテ関所ノ警固手形ノ取扱罪人捕拿門鑰ノ保管並ニ受付ヲ兼シ皆定付ニシテ安中藩ヨリ各々切米十五俵二人扶持ヲ受ク水色絹ノ羽織ヲ着用ス。
同心ハ後閑。須藤。佐藤。清水。齋瀬。渋谷川又ハ等ナリシガ廢関後離散シ現任者ハ後閑、須藤兩家ノミトナレリ。
堂峯勤務同心一人ナリ職俸横川ト同ジカリ

シガ天保年間以後切米丸俵老人扶持ト定メテ
ル外ニ中間二人アリ。

四、中間四人各、二人東西兩門ヲ守ル西門ヲ守ル
二人ハ雇中間^年ニシテ安中藩領民ノ志望
者ヲ採用シテ東門ノ開閉並ニ関門内道路
ノ掃除ヲナス何レモ花菱ノ紋アル木綿紺色ニ
テ腰部ニ一條ノ細キ白線ヲ染メ扱キタル法被
ヲ着用セシム。

五、箱番四人藩民ヲ雇入レタルモノニシテ常ニ箱室内
ニアリテ乱心者ナドヲ取締ル若シ乱暴ヲ
ナレ制止スルモ其ノ效ナキトキハ備付ノ楯棒
ニテ打擲スルコトヲ許サル是ハ花菱ノ紋アル

ル淺黄木綿ノ法被ヲ着用ス。

六、西門番中間ノ妻女ハ女子通行ノ際引戸籠ノ
戸ヲ開キテ内ヲ檢メ番頭ニ向テ聲高ニ
御髮長テ御坐イ一御髮切テ御坐イ一ト申
告スルノ務メヲナシタルモノニシテ此ノ瞬間妻女
ノ袂ハ重クナルコト普通ナリト云フ。

七、堂峰見張所ハ碓氷山嶺旧道宇堂峰ニマリ同心
及ビ仲間二人ニテ北背ヲ道路ニシ山ニ向ツテ山
潜行者ヲ見張リタルモノナリ嘗テ和宮殿下
御降嫁御下向ノ節沼田藩ヲシテ坂本驛ノ
警衛ヲナサレム出張ヲ命セラレ駐屯シタル同
藩士某偶々閑ヲ得許可ナクテ入ノ湯ニ浴

セントシテ山道ヲ通過スルヲ見張所員ニ見
 顯サル所員再三其ノ違法ヲ説キレモ頑トシテ
 獲セズ依ッラ見張番所ニ情報ス番頭ハ即
 時旨ヲ含メテ同心後周造外一名ヲ遣リテ
 沼田藩ニ談判セシム沼田藩其ノ不法ヲ陳謝シ
 該士人ヲ召還シテ事漸ク解ク見張所ニハ棒
 二本三ツ道具二通り捕縄二筋松明等ヲ備
 ヘタリ。

第五。燭門内備付武器及雜具

一安中藩付

品目	數量	品目	數量
銃砲	壹	玉箱	壹
猩猩皮袋	壹	玉葉鑄型入	
木綿火繩	壹	弓	五
筒乱小道具入	壹	鞞	五
		矢拾支完鞞入	

二幕府付

品目	數量	品目	數量
長柄	壹	捕縄	五
突棒	壹	手鎖	壹
指膜	壹	松明	壹
庚		階子	參

寄棒 提燈臺 手桶 水溜桶 箒手桶 大團扇 圓座 火盆 大綱 麻綱 御用篋筒 棒 付四 半長持

五 五 貳 貳 壹 五 五 壹 壹

提燈掛 金行燈 文庫 炭取 石火打箱 硯箱 欽砲箱 下番所火鉢 刀掛 燭臺 蓮臺

壹 壹 壹 壹 貳 壹 壹 壹 壹

四人擔之 霧積川 久保橋 今霧積橋流失 際之使用不

一制札寸法 第六 關所制札

- 一中、高廿一尺三寸四分
- 一笠木長廿一尺八寸四分
- 一全 幅四寸一分
- 一全 厚廿一寸二分
- 一西幅高廿一尺二寸四分
- 一厚廿一寸一分
- 一橫長三尺六分
- 一建柱長廿七尺七寸二分
- 一全 角二寸八分

二制札、寫

定

一此関所ヲ通罷上ノ輩番所ノ前ニテ笠頭巾ヲ

又ダヘキコト

一乗物ニテ通面々ハ乗物ノ戸ヲヒラクベレ但女ノ

乗物ハ番所ノ輩指圖ニテ女ニ見セ可相通事

一公家門跡象諸大名衆参向ノ節ハ前廉ヨリ共

沙汰可有之間不及改自然不審ノ儀アラバ

可為格別事

右可相守此旨者也

仍執違如件

正保二年七月日

奉行

第七 関所通過ニ関スル規程

於碓氷関所改様 (原文ノマニ)

一 下リ女ハ福島御所ヨリノ送り手形ニテ通之

一 信州一圓ノ入女ハ松平丹波守殿ノ手形ニテ通ス

一 越後佐渡加賀能登越中ハ柳原小太郎殿手形ニ

テ通ス

又ハ加賀能登越中ハ松平加賀守殿家老共手形ニ

ニテモ先規ヨリ通来候

一 善光寺五知ノ如来来詣并草津其外湯治ノ女ハ罷

出候節断次第帰候時分右ノ手形ニ引合通之但

善光寺五知来詣湯治ト有之分通ス右ノ分々手

形ニ無之候得者帰候節不通

罷出候者三月越ニテバ帰候節同断病氣ナレ

バ明リ立テバ通ス

一上方ヨリ下リ鉄砲ハ公義手形ニテ通之

一入り候局長柄多キ節ハ其ノ家ノ家老手形取置キ

テ通之

一尾張大納言殿紀伊大納言殿尾張中納言殿紀伊

宰相殿紀州尾州江上下之節鉄砲二十五挺ハ先

年奉書来ニ付家老手形ニテ通ス

一松平加賀守殿手筒五挺ハ先年奉書来ニ付改無

之(平大名ハ鉄砲ハ三挺ヲ最多極限トス)

一上方ハ出候鉄砲ハ改無之



一上方ハ出候長持ハ内ニ女可有之哉ト改之

一下リ候長持長キ箱類ハ内ニ鉄砲可有之哉ト改

之

一出候手員ハ公義手形ニテ通之入候手員ハ其ノ家

ノ家老手形ニテ通来候

一上使象御目付象並公義御用之緒飛脚之外

ハ暮六ツヨリ夜中為無断不通之併時付ノ

飛脚等其外モ断遣聞届候得者通来候

一輕キ奉公人並ニ飛脚等其ノ家ノ家老用人ノ手

形又ハ其ノ主人ノ手形ニテ通之供ノ下人貳人

三ノ召連遣成モハ無手形通来候

一順禮六十六部ハ往来見届改メ通ス

一、藝人ハ藝ヲ致サセ其上相改見届通ス
一、所人ハ其所ノ名主百姓ハ其村ノ庄屋手形ニテ通
之候

一、二條大坂在番之大御番且又興力同心並ニ家来迄
乱心又ハ手負之者有之罷下リ候節大番頭
手形ニテ通之

一、京大坂佐渡江御用之刻付御老中様宿々之

御判物拜見晝夜共ニ相改通候

右御判物ヨゴレサルヤウニ拜見ノコト

詰合番頭平番同心共改日記ニ留置右之外御

用刻付晝夜共ニ改通ス

一、公義御用ノ早飛脚夜中斷承届相通ス

其ノ外夜中通候分掛板之留ニ有之候

一、御免之者國々相廻リ候節証文無之相通来リ候

一、御朱印物通リ候節右同断

一、女改之事衆物之分者御明番之妻兩人代リ々々

罷出相改候歩行之女者御関所掾ニテ同心相改
候

一、前髪有之男子十三歳以下者前ヲ明々改候事十三歳

以上ハ乳ヲ改通候事不審之様子有之節ハ前ヲ

改通候

一、上方ヨリ福島碓氷関所通リ候者、儀証文ハ福島

ニテ留置キ碓氷江者福島ヨリノ送手形ニテ通

ス中田関所通リ候者江者碓氷ヨリ手形差遣ス、



一所替ノ女ハ公義ヨリノ別證文ニテ通ス

第八、通関手形並旅人通過

一、関所開門ハ朝六時ヨリ暮六時ニ至ル十二時間ト
ス但シ東門ハ夜十時迄ハ関所内ノ人ハ出入スルコト
ヲ得タリ特ニ三家越前加賀等諸候ノ通過ノ
時ハ夜中ト雖モ自由ニ通過シ得ル様開門ト
シ置キタルモノナリ

二、一般通行人ハ手形ヲ持テテ門ヨリ入り(西ヨリ東スルモノハ手
形ヲ要セズ)番所ニ至リ同心ニ差出シ番所入口階段
下ノ平石ニ手ヲ着キお時宜ヨナシ許可ヲ得テ
門ヲ出デタルモノナリ故ニ北石ヲ称シお時宜石

ト云フ元来東門ハ安中藩ノ門ニシテ西門ハ天下
ノ門ト称シテ即チ幕府ノ門ナレバ夕刻閉
門限ニ近ヅクト東門番ハ門口ニテ西門ヲ見
ツ、東ヨリ来ル旅人ヲ麾キテ急ガシム門内ニ
入ルト雖モ西門閉ヅレバ再度ラシメタルモノ
ナリ西門ノ尊重サレタルハ其ノ基礎腐朽ス
ルモ根本ヨリ全ク改造スルコトヲ許サレザルニ
テモ知ルベシ

三、掟ノ如ク藝人ハ各々其ノ藝ヲ演セシメシモノナルガ
就中俳優通行ニ際シテハ近傍ヨリ椽台ヲ借
リ集メテ段舞台トシ演技セシム此ノ時近傍
ノ者ハ自由ニ門内棟内ニ入りテ觀覽スルコトヲ

得セシメタルモノニシテ事務閑散時ニハ稍々長時
間ヲ費シタリト云フ。

四手形ハ別ニアル如キ形式ノモノニテ横川ニテハ武井
ノ末裔及ビ現時ノ佐藤翁三郎ノ家ヨリ榮レ
タルモノニシテ各町村ニテハ名主年寄ノ出
セシモノナリ武井鶴三郎佐藤翁三郎ノ両家
ハハ女作場手形木札ヲ下附シ開門中ハ自由
ニ出入ヲ許セシモノニテ横川村、他ノ女子ハ之
ヲ借リテ往来ニタリト云フ。

第九 入鐵砲及ビ出女

越関ニツキ幕府ノ最モ意ヲ用キタルハ入鐵砲及出

女ナリ蓋シ土地ヲ典ヘテ常住セシメ陽ニ優待
ヲ示シ陰ニ其ノ妻女ヲ質トシ諸侯ヲシテ妻
子ノ情愛ニ絆サレ背叛スルコト能ハガラシメタ
ル主目的ナレバナルベレ故ニ女性及鐵砲攜帶
者ニ對シテハ如何ナル事情ノ存在スルモ老中ノ
加判ナキモノハ断乎通過ヲ許サズ一日安中
藩主ノ愛妾某祈願アリテ碓氷山嶺能野神社
ヘ兼詣ノ砌モ時ノ老中ヨリ許可ヲ得テ往来
セシナリ関門守護者ノ家族ニシテ既ニ此ノ如
ク加賀侯ノ如キハ坂本驛ニ鐵砲納藏ヲ置
キ幕府行列ニ五百挺ノ鐵砲ヲ加ヘ来ルモ此処
ニテ納庫ニ只五挺ノミヲ攜帶ヲ許サルコトノ

定メナリシ其ノ嚴重ナルコト推知スベシ但シ移封セラレハ際ハ老中ノ許可ニテ持筒ノ全部女子ノ全体携帶移出シ得タルハ論ナシ。

一 御判鑑

身分アルモノハ勿論身分低キモノニテモ女子ノ出闕者ニハ必充中ノ許可書ヲ要シ其ノ他諸侯各領民ニ対シテハ領主御三家ノ保証ニヨリテ通闕セシメタルモノナレバ其ノ信偽ヲ鑑別センガタメ皆各其ノ判鑑ヲ闕所ニ提出シ置キタルモノナリ。

判鑑通知ノ例

(ニツ折程村ノ紙)

青山備前守御役御免日向守儀拙者共同

役被仰付候間所手形從當四月十八日可致加判候間碓氷闕所此印引合可被通旨御申付可有之候以上

寛延ニ己四月十四日

- 水野河内守 印
- 丹羽近江守 印
- 土屋兵部少輔 印
- 酒井越中守 印
- 内藤金一郎 殿

二 出女老中御詔文之例

出上下四人内尼危人髮切二人從江戸西國順礼

碓氷關所每相連可比通候
竹川町長兵衛店勘兵衛母同伯母同妹下女
之由証人共致清狀町年寄加判其上能勢
肥後殿馬場讚岐殿断之付如此候以上
寬延二年二月十三日

越前中
備前
河内
近江
兵部

碓氷

人改中

女上下式人從江戶越前國福井近碓氷關所
無右連可比通候松平兵部大輔殿亦近藤
助右衛門與申者之妻並下女之由兵部
大輔殿内津田九右衛門加藤長右衛門断
付如斯候以上

寬延二年己三月六日 (發行名及宛名略之)

三八 鉄砲老中御誦文之例

覺

松平加賀守系府之付持筒五挺之事向後每
相連關所可相通者也

延享四年四月 伯耆 印

碓氷

關所番中

相摸印
雅樂印

四鉄砲御詔文裏印之例

覺

- 一 五分 玉筒鉄砲
- 一 毫分 玉筒鉄砲
- 一 二分 玉筒鉄砲
- 一 三分 玉筒鉄砲
- 一 四分 玉筒鉄砲
- 一 五分 玉筒鉄砲
- 一 拾分 玉筒鉄砲
- 一 三分 玉筒鉄砲
- 一 四分 玉筒鉄砲
- 一 五分 玉筒鉄砲
- 一 拾分 玉筒鉄砲

毫 二分 二分 二分 四分
挺 挺 挺 挺 挺

- 一 三分 五分 玉筒鉄砲
- 一 三分 八分 玉筒鉄砲
- 一 四分 三分 玉筒鉄砲
- 一 五分 玉筒鉄砲
- 一 拾分 玉筒鉄砲

拾八挺
三挺
参百挺
四拾挺

長持三掉

右者從播磨國姫路上野園前橋江所替此仰
付候三付先達而陸地差越候武具共三御坐
候碓氷關所口能通候様相成帛裏印可比下
候以上

寛延二己巳年四月

松平喜八郎

印判
書判

堀田相模守殿
本多伯耆守殿
松平右近将監殿

表書之鉄砲多百七十四挺関所毎相違可被相通
候断ハ本文ニ有之候

右近印
伯耆印
相模印

碓氷関所番中

五 老中奉行御詔文返達

老中ヨリ發スル出女入鉄砲共、他詔文ハ其儘
関所ニテ保存シ置タコトヲ得ズ取纏ムテ都
度都度特使ヲ以テ江戸表ニ返納シタルニ
ヨリ其、真物一枚モナシ

御詔文御返達、誤先格不相知候ニ付安中御
年寄近相伺候所何レニモ伺書相添江戸表江
差出可然御差圖ニ付廿九日安中江持参五
月一日小役人老入足輕老入死脚ニテ此道儀
事

右御詔文江戸表ニテ同月御用番西尾隠岐守
様江御直ニ御返達被成候由江戸表ヨリ被仰取候

第十、高貴通過、當、番人下座禮

附番所飾付之事

諸大名其他御通、節番人着服 (原文、終)

並、執計、コト

一、下坐、礼有之御方様江者番頭石垣、下工居平

番石垣、上、居同心共共末、居ル常御大名ハ

羽織袴同心着板、コト

二、下坐無之御直參御方様御通、節ハ番頭一人

羽織袴着用、石垣、下江能出候下坐スル

誤、ハ無之御乗物、戸又御明々被成候様

下申進候時御時誼被成候ハ下坐仕候

三、日光御門跡様御三家様並、松平加賀守様御

通之節者惣下坐麻上下不残石垣、下江下リ

候事 但威砂飾手桶致、候事

四、御禮幣公家象日光江四月十日御通、被成候毎

度坂本御泊、而候間御通、之節番頭麻上

下平番、同様同心着板羽織着用威砂手桶等飭

五、御老中様方御通、節下坐之儀次、通

御番頭兩人平御番三人麻上下着用仕御番所

明々石壇下江能出候

同心五人着板羽織着用御着所明々縁下迄罷

出候兩門御番四人着板着用兩御門下江差出、

候長柄拾竹助持鑓五本飭手桶貳拾差出申候

番所飾付

- 一 御幕一對上番所下番所江打候事
- 一 平日長柄五筋鎗三本三ツ道具之事
- 一 年始五節向御通有之節ハ長柄拾竹筋鎗五本之事

第十一 関所破り及び其ノ所刑

一 関所破りトイフモ公然暴カヲ以テ関門ヲ撃破シテ通過スルコトノミハアラス詐述詭辨番所ヲ欺キテ通ルカ又間道ヲ迂回スル等ノ行為ヲモ併セ称シタルナリ、シカレ御尋ネ物ニアラザル旅人ニ対シテ頗ル手心アリタルモノナリ。タトヘバ旅人私ニ後山ヲ越サントシテ発見セラレシ時男性ノミナレバ

東ヨリ西ニ向ヒシ者ニ対シ何方ヨリ来リシヤヲ問ヒ西ヨリ来リタリト答フレバ事實東ヨリ来リシコトヲ知ルモ然ラバ先ニ来リシ方ニ戻レトイヒテ通過ヲ黙許シタルモノナリ。

ニ 女性同伴者ニシテ関所破リノ行為アリテ後日何等

カノ動機ニヨリテ露顯セシトキハ極刑ニ處セラル刑ノ宣告ハ幕府ニシテ藩及び関所ハ單ニ逮捕押送スルノミ犯人何處ニテ捕拿セララルモ破リレ關所々在地ニ護送シ来リテ刑ヲ執行シタルモノナリ。間道ヲ案内シタル者亦全ク令テ去ル百年前一僧女子ヲ携ヘ後山ヲ越セシコト江戸ニテ露ハレ入牢吟味中死亡シタリシニ其ノ屍

体ヲ大甕ニ塩漬トシテ送り来リ刑場ニテ磔
刑ニ處レタリ而シテ之ヲ同所近傍ニ埋ム刑場
ハ俗ニ磔河原碓氷川右岸ト稱スル地ニテ二十年前
村人此處ヲ開墾シテ田地トナセシニ甕ノ破片骨
片等出デタリト

梟首場ハ三ノ川又保霧積川ノ左岸國道ニ沿フ
三寶永年間板倉伊豫守殿當御殿所御勤之節前
橋領下位鳥村左治兵衛與申者俾困林ヲ
貫キ川又保江出候所原村庄三郎見出番所江
許候ニ付番人共走付搦捕則安中江召連傳
馬町穿江入置江戸表江注進申候事右之左
治兵衛尋之儀有之候間江戸江差出候様

ニト申来候ニ付右之者目籠網ヲ掛手鎖おろし
高手ヲレバ御殿所ヨリ番人一人是者小屋野
三郎兵衛安中ヨリ足輕八人中間二人差添江戸
江遣又道中籠解人足ヲ出産ニテ者共宿々
問屋江居ケ手形ヲ取宿ニ而者堅申付加番ヲ
為出夜守候事

囚人板札ヲサレ碓氷御殿所ヨリト印申候由籠
解中間二人左右江足輕兩人宛宿ニテ役人相添宿
渡先佛中間二人捧ヲ持人佛候事
囚人江戸江着翌日 公義江渡穿舎致候事
廻リ者見出候庄三郎江為俾襖美金子被下置
候事右罪人於江戸穿死致候ニ付首ヲ打汰差

越川久保獄門之掛申候事

此者關所ヲ廻リ山中ヲ貫可申候ヲ見出如斯
行者也

年月日

(以上一項原文校幕)

四享保十六年坂本宿長太郎ナルモノ女ヲ連レ後山ヲ通

リ捕ハラル江戸表ニ護送シタルハ安中ヨリ物頭

佐文間要左衛門同心十人仲間ニ人ナリレ(護送

ノ途中及ビ刑ノ執行ハ前ニ準ズル之ヲ略ス)

五文久年中博徒文八十八元ノ前同罪ニヨリ磔刑ニ所セ

ラル此ノ現状ヲ目撃シタルモノ現存

第十二 徳川吉宗日光廟系ニ當リ關所自メ

享保十三年四月吉宗公日光御社系ニ付御關所御勤
番ノ次第松平左近將監殿御差圖ニテ左ノ通り

御家老一人宛交代相詰

御關所江御目付一人宛右同断

足輕増人十人

給人扈人交代

堂峰江 中小性扈人交代

足輕兩人増人

一、今度御社参ニ付御在所へ御暇被崇仰三月十
五日御城着四月七日爲御見分御關所江被爲入

候事 (安中候事)

- 一 吉宗公御社来四月十日卯ノ上刻御供揃ニテ同
下刻御出興同廿日還御
- 一 御社参中御関所往来改様上下共ニ相改併シ入
候旅人ハ手形取不申何方ヨリ何方江来候旨承届
一々帳面記置候事
- 一 鉄砲者御老中様御証文持来候共御留守之中ハ
相通不申候
- 一 御社来中火之元申付候次第書ノ内時廻リ風烈川
之節者度々相廻リ (此ノ項原文ノマ)

第十三 通関ニ関スル雜事

一 慶應年間錦小路郷全郷ハ不都合ノ所爲ノ一行ト称シ
テ所謂賈来リシモノ坂本驛ニ滞留中既ニ信州諏訪藩ニ
テ官軍也逮捕ニ向ヒシ安中藩士ニ抗爭セシガ其
通信アリテ既ニ信州諏訪藩ニ
準備成リ居リ逮捕ニ向ヒシ安中藩士ニ抗爭セシガ其
ノ餘黨十三人関内ニ入ルヲ俟ツテ直ニ捕ヘテ安中藩
ニ送ル

二 明治元年冬武田耕雲斎ノ孫金次郎ナルモノ
手兵ニ三百ヲ率ヒ東下、途次岩倉公ノ手形アル
モノヲ渡スハ公ニ対シテ恐レアリトテ之ヲ出サズレテ
通過セントス番頭関法ニ反スルヲ以テ再三之ヲ諭
スモ聴カズ強ヒテ越関セントス番頭固ク門ヲ守リ

テ許サズ論難愈々劇烈形勢益々險惡関外民
等之レヲ聞キ不安ノ餘リ狀況ヲ窺フモノ情報ヲ
齎スモノ相踵グ時移ッテ尚ホ決セズ談判破裂
鬪争起ルモノト速断ニテ相警戒家財ヲ取纏メ
老ヲ幼リ幼ヲ扶ケ立退ノ準備ヲナスニ至ル其ノ危惧
狼狽名狀スベカラズ而モ法ノ前ニハ屈セザルヲ得ズ
漸ク手形ヲ出シテ僅ニ事ナキヲ得タリ番士等が
生死ヲ度外ニ置キテ関法ヲ枉ゲザルハ洵ニ称スベ
キコトナラズヤ彼ノ松平樂翁公箱根越関ノ遵法
ト対照シテ其ノ感如何

第十四、廢関

一明治元年春三月有栖川總督官附岩倉具定公ヨリ
口達ヲ以テ自今天朝、関門ト心得ベレトノ御命
アリタリ是ヨリ東門ヨリノ手形ヲ要セズ西門ヨリ
スルモノ手形ヲ要スルコトナレリ是ニ於イテ事實幕
府ノ関門ハ終焉ヲ告ゲタルナリ。

二明治二年二月二日安中藩京都留守居役ヨリ
朝廷ノ命ニヨリ廢関ヲ達セラル茲ニ二百有餘年
間誰可檢閲ノ権ヲ握リ幕府ノ尊嚴ヲ誇示
シ且ハ旅人ヲ震懾セシメ不便ニ泣カシメタル著名
ナル碓氷関門ニ乾坤一轉急轉直下幕府ノ解
體聖世ヲ謳歌スル時運ト共ニ撤去スルコトナ
リ同月中ニ一切ノ家屋物件ヲ安中藩ニ引渡シ

全部引拂ヒタリ 嗚呼ニニハ永久ニ記念スベ
キ日トナリタリ 廢閣ト云フ 單一ノミニアラズ 無量ノ
意味ニ於テナリ。

三圍林ノ全部閣所跡ノ地所家屋等ハ概ネ村民ノ
有志ヲ拂下ゲラル閣址ノ一部ニ明治十年六月小學
校舎ヲ設立シ後廢校トナルヤ遊樂地トシテ櫻樹
ヲ植付ケタリ 鼻曲山及朝日瀑ニ對シ風景賞
スルニ足ルベシ

第十五、閣所内番所ノ經費及用具

昔時ノ一役所ノ經費ト其ノ消息ヲ窺フモ亦一興ナラ
ニコトラ思ヒラ其ノ一節ヲ抄録ス。

御閣所一ヶ月入用

一、油 大月 三升六合 一夜一ヶ所ヲ宛ニ有明ニヶ所
小月 三升四合八勺

一、同 大月 一升二合 平番衆 燈ニヶ所
小月 一升一合五勺

一、薪 大月 四十五束 同 断
小月 四十三束半

一、味噌 大月 六升 同 断
小月 五升八合

一、汁ヲ實一代リ二百文宛 同 断

一、味噌 大月 四升六合
小月 四升三合

中間三人、四十人一本

一、塩 一升八合

同断

一、薪 大月 三十束
小月 二十束

同断

一、汁の實 百文

同断

外、米一斗八升

是ハ平番三人中間三人ニ被下候
其薪伐リ一人一日六束、七十一束一人ニ付米一升
五合宛十二人分

一、油 大 四升八合
小 四升六合四分

一、味噌 大 七斗五合
小 七斗一合五分

一、薪 大 七十五束
小 七十二束

一、汁の實 三百文

一、塩 七升八合

右之通り御用部屋ヨリ被仰出候

加番部屋附道具
覚

- 一 なべ三ツ
- 一 手桶一ツ
- 一 米かき一ツ
- 一 飯継一ツ
- 一 貝杓子一本
- 一 火箸 老揃
- 一 柄杓 老本
- 一 米桶一ツ
- 一 手たらい 小大 貳ツ
- 一 味噌桶 一ツ
- 一 摺鉢 一ツ
- 一 飯杓子 老本
- 一 庖刀 老本
- 一 火打箱 一ツ
- 但火打かまは付
- 一 姐 一枚
- 一 流 一ツ

- 門番中間象へ渡物
- 一 手桶一ツ
 - 一 桶大小ニツ
 - 一 たらひニツ
 - 一 なべ大小ニツ
 - 一 摺鉢一ツ

山灰渡シ方

- 十一月十二月 四ヶ月分 炭二十俵
- 正月二月 但一ヶ所一ヶ月ニ俵半 貳ヶ所ニテ 五俵
- 三月四月 四ヶ月分 炭 八俵
- 九月十月 但一ヶ所一ヶ月ニ俵 貳ヶ所ニテニ俵
- 五月六月 炭 四俵
- 七月八月

但一ヶ所一ヶ月半儀

或ヶ所ニテ一儀

堂峰年中ニ二儀宛

炭合計三十四儀

土月ヨリ十月迄

第十六 助郷

常時ハ坂本原五料上増田土塩等ニテ人足ノ徵發事
足ルニ一旦大行李運搬道路ノ修理洪水渡川久保橋
架橋等其ノ他ノ大事ニ至リ多人數ヲ要スル場合ニハ普
通傳馬ノ外ニ石高ニヨリテ人足出役申付クルタメ各々其
石高ヲ調査シテ應急ノ準備ヲナシ置キタルモノナリ。

其ノ例

(原文抄録)

一 御要害山根通りヨリ持送り候人足ハ安中御年寄

江申立郡奉行致相對外村ニ申付候事

一 先年津関所内同心共居宅類焼之節人足多入候間

他村江人足申付候由同心共横川役人申聞候

一 堂峰往還通修覆人足坂本宿江申付来リ候竹木伐

リ候節又ハ同心共居宅修覆等ノ人足ハ御年寄中

江申立外村江申付候

石 高ノ寫

一 高百壹石 安中津領分

一 高貳百三拾壹石

一 高六百四拾壹石

一 高四百三拾八石

一 高四百三拾壹石

原村

横川村

五料村

土塩村

新井村

- 一高四百二十五石
- 一高貳百四十五石
- 一高貳百三十石
- 一高四百二十五石
- 一高六百四十石
- 一高六百二十八石
- 一高四百二十石
- 一高百二十石
- 一高百石
- 一高百石
- 一高百四十七石
- 一高百五十七石

織田兵部大輔様御領分

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

- 高梨村
- 國術村
- 上増田村
- 下増田村
- 小日向村
- 上後周村
- 八代村
- 烏泊村
- 大ヶ村
- 大牛村
- 行澤村
- 古立村

- 一高二百二十五石
- 一高二百二十一石
- 一高二百九十五石
- 一高三百八十石
- 一高二百五十石
- 一高四百石
- 一高七百六十五石
- 一高千十五石
- 一高九百九十五石
- 一高千四百八石
- 一高九百五十六石
- 一高百十四石

織田兵部大輔様御領分

〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

高井兵部大輔様御領分
 織田兵部大輔様御領分
 山林部大輔様御領分
 於平坂前守様御領分
 河田丑藏様御領分

- 中里村
- 八木連村
- 十二村
- 丹生原村
- 古立村
- 諸戸村
- 菅原村
- 上丹生村
- 下丹生村
- 下高田村
- 人見村
- 上磯部村

一 高七百石
一 高八十二石

二軒在家村
行田村

一 參拾卷ヶ村
石高一卷一万三千三百二十七石

第十七、川久保橋ト関所

臼井坂本西町境ニテ國道ヲ横断スル霧積川當時ハ碓
氷川或ハ川久保川ト呼ビ小川ナルモ隨分此ノ川ノ汎
濫ニハ苦メラレタルモノ、如レ蓮臺ノ備付アリタルニ徴シテ
モ知ラルベレ洪水毎ニ橋梁危殆ニ瀕スルトモハ坂本原横
川ノ住民駐付之レガ防禦ニ力メ流失満水ノ際ハ川越
人足ヲ出シテ渡渉セシメタルモノナリ御関所ノ重要ナル

事務タリレコト次ノ數項ヨリテ略々推知レ得ベレ。

一 碓氷川満水ノ節川久保橋可落様子ニ候得者同
心共兼ニ村役人召連夜中ニ而茂被越古来ヨリ
大綱麻綱張ラセ候橋落候得者橋材木等不流
様子ニ滞関所ニテ申付候坂本宿横川村人足
五十三人西川端江差出候

一 川久保橋麻綱六十間大綱三十間之事
一 川久保川高水ニテ橋落候節者序大各様方
其外往來モ横川村原村坂本宿三ヶ所之者
罷出川越仕候而賃錢取申候併内藤備後
守様御通ニ節ハ賃錢取申間敷由取不

申候酒井信濃守様大坂市在番市越ニ而
市通被成候是茂此方ヨリ賃錢之儀取候
様ニ不申上候得共可なたヨリ被下置候松
平加賀守様ニ市橋圍之木有之成市
尋被成候而有之候段被仰候得者可
与左ヨリ人足賃錢市出シ日雇市遣市橋
以柳市渡被成候是茂被出候人足若江島
目等被下候

一川久保橋落候節、用心材木切組置候事
一橋修履歩行渡相成候節市大名様方市
道は同勢相通候内者両川端江同心共屯
人宛差同世話為致候

一市大名様方川市渡被成候節番頭屯人市関
所ニ着眼之儘川原江罷出候若党屯人草履
取意人魁持屯人同心共は同勢相濟候迄相詰
候事

第十八 雜 録

一五洲土塩上増田ノ三ヶ村ハ外圍ト称シテ一朝関内ニ
事アルトキハ警衛スベキ義務ヲ有シ領主異動
毎ニ嚴重ニ警告固スベキ誓書ヲ徴サレタリ故ニ此ノ
三ヶ村民ノ往来ニハ頗ル寛大ノ處置ヲ執リタリト云フ
ニ原村横川村ノ者ハ常ニ関所雜役ニ使用スルニヨリ
諸賦役ヲ免セラレタリ

三東園門、沿フタル木柵碓氷川、邊ニ犬潜リト

称スル小門戸アリテ五料横川ノモノニハ自由ニ坂

本驛トノ往来ヲ黙許シタルモノナリト云フ

四関所文書ノ表敬區別 將軍家ハ打上若シクハ

關字公義ハ關字西丸三家大奥ハ打上ゲ東叡山

ハ打ゲトセズ

五江戸證文ニ用キタル敬稱殿字畫別

三家 殿 四位以上 殿 四位以下 殿

六平大名ノ家老ニ家老共トシタルニ御三家々老ハ

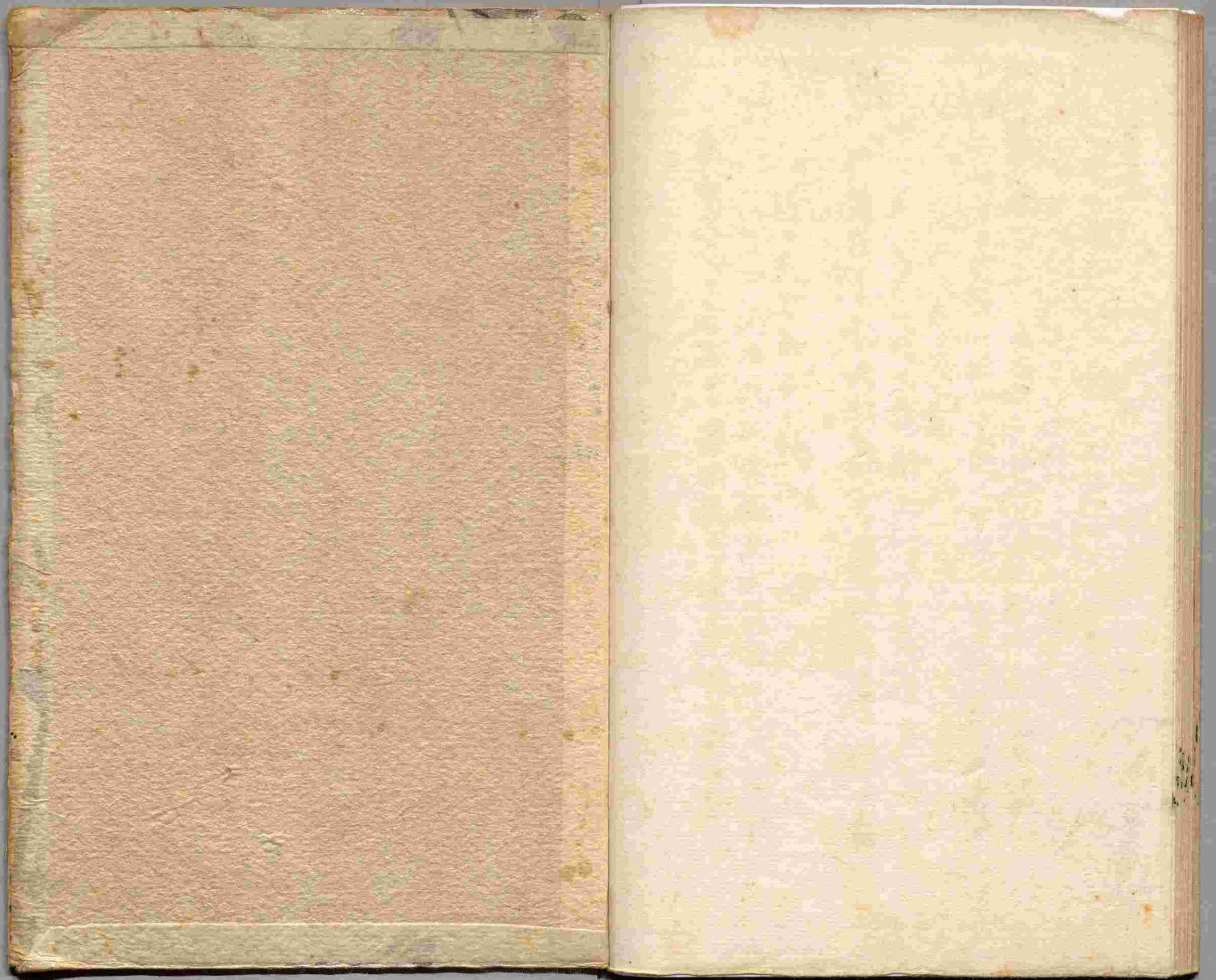
御老中様方御大名様方ト用キル方ノ敬稱ヲ

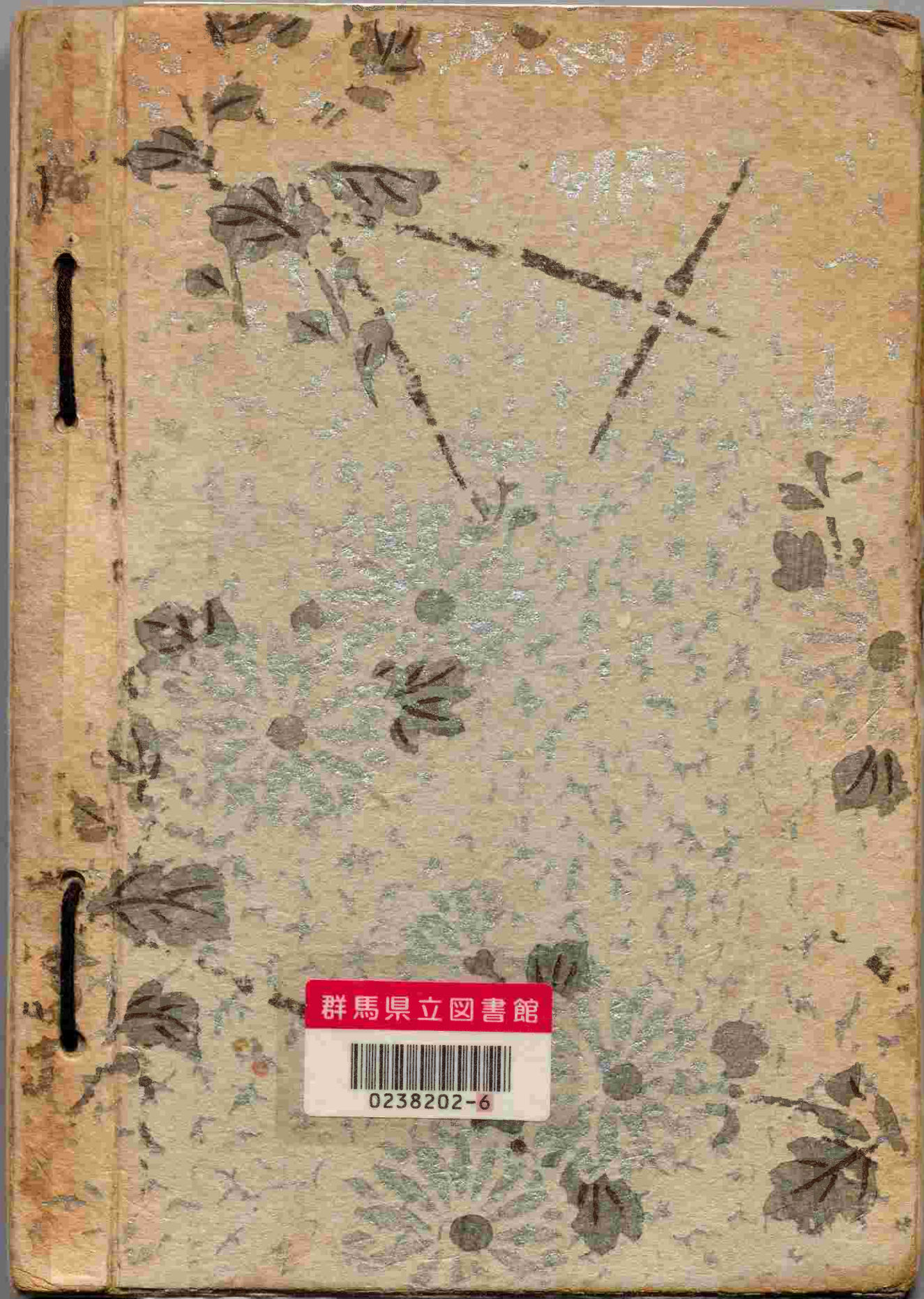
附シテ家老方ト呼ブ

七幕府ヨリ證文到來之ヲ拜見スルトキハ傘ヲ翳

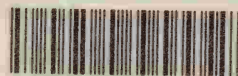
シ証文ノ上ニ白紹ノ如キモノヲ張リテ透見

セシモノナリトイフ。





群馬県立図書館



0238202-6